

平成25年度科学技術人材育成重点枠実施報告（【②海外連携】）（要約）

1 研究開発のテーマ	ESDの視点や国際性を備えた人材及び指導者を育成する研究開発																												
2 研究開発の概要	<p>①定常的な海外連携による共同調査研究・発表・フィールドワークの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツへの訪問およびチェコ・韓国からの訪日を実施し、事前に行った生徒によるESDに基づく共同調査・研究成果について発表した。なお、タイへの訪問は相手国の事情により中止せざるを得なかった。 ・海外連携校生徒と一緒に現地、または日本でフィールドワークを行い、その成果と討論を行った。 ・広島県立広島国泰寺高等学校生徒と共同で実施した。 <p>②開発する教育内容の深化・発展、及び検証、評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ESD各研究機関（広島大学等）や企業等の指導、助言、協力を得て、内容の深化・発展を図った。 また、ACCU（ユネスコ・アジア文化センター）、ユネスコスクール、各自自治体（広島県浦島漁協等）と連携しフィールドワークを行った。 ・SSH運営指導委員等による検証や評価を行い、内容の改善を図った。 <p>③組織的・継続的な教職員指導者の育成、及び普及活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広島県教育委員会に働きかけ、生徒、教職員への本校のSSH事業重点枠事業への参加を要請した。 ・選抜した生徒による海外研修の成果を「SSHの日」などにおいて報告すると共に、SSH基礎枠で実施している学校設定科目「科学英語表現」や「ESD研究」等との相乗効果を図った。 ・広島県立広島国泰寺高等学校の生徒と共同で実施し、研究成果を地域の学校と共有した。 																												
3 平成25年度実施規模	<p>高等学校第1，2学年約400名の中から、重点枠事業の趣旨を理解し、意欲と実践力をもった生徒約50名を選抜し、事業に参加させた。また、地域の他の高等学校の生徒にも呼びかけ、5名及び引率教員が海外派遣に参加した。また、派遣生徒は本校生徒の前で発表し、成果を共有した。</p>																												
4 研究開発内容	<p>海外連携国及び実施内容</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>連携国</th> <th>韓国（訪日）</th> <th>ドイツ（訪問）</th> <th>チェコ（訪日）</th> <th>タイ（訪問）※</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>連携校</td> <td>ムンサン女子高等学校</td> <td>ハイゼンベルグギムナジウム校</td> <td>ハイスクールインヴィシユコフ</td> <td>プリンセスチュラボーン・サイエンスハイスクール・ムクダハン校</td> </tr> <tr> <td>実施時期</td> <td>10月11日（金）～13日（日）</td> <td>11月11日（木）～16日（月）</td> <td>11月18日（月）～22日（金）</td> <td>2月9日（日）～15（土）</td> </tr> <tr> <td>実施テーマ</td> <td>干潟を通じた環境問題</td> <td>ゴミ処理問題，エネルギー問題</td> <td>発酵，微生物及びバイオマスと環境</td> <td>水質の浄化と環境</td> </tr> <tr> <td>対象国（生徒数-引率者数）</td> <td>韓国(11-1) 日本(15)</td> <td>本校(10-1) 広島県立広島国泰寺高等学校(5-1)</td> <td>チェコ(1-1) 日本(8)</td> <td>本校(15-3)</td> </tr> </tbody> </table> <p>※タイとの連携事業に参加する生徒15名は「水をテーマにしたESD研修（3月1日（土）～3日（月））」に参加した。</p> <p>①定常的な連携方法として、各国生徒による共同調査研究では、各生徒に配付した携帯端末機器（タイ研修</p>				連携国	韓国（訪日）	ドイツ（訪問）	チェコ（訪日）	タイ（訪問）※	連携校	ムンサン女子高等学校	ハイゼンベルグギムナジウム校	ハイスクールインヴィシユコフ	プリンセスチュラボーン・サイエンスハイスクール・ムクダハン校	実施時期	10月11日（金）～13日（日）	11月11日（木）～16日（月）	11月18日（月）～22日（金）	2月9日（日）～15（土）	実施テーマ	干潟を通じた環境問題	ゴミ処理問題，エネルギー問題	発酵，微生物及びバイオマスと環境	水質の浄化と環境	対象国（生徒数-引率者数）	韓国(11-1) 日本(15)	本校(10-1) 広島県立広島国泰寺高等学校(5-1)	チェコ(1-1) 日本(8)	本校(15-3)
連携国	韓国（訪日）	ドイツ（訪問）	チェコ（訪日）	タイ（訪問）※																									
連携校	ムンサン女子高等学校	ハイゼンベルグギムナジウム校	ハイスクールインヴィシユコフ	プリンセスチュラボーン・サイエンスハイスクール・ムクダハン校																									
実施時期	10月11日（金）～13日（日）	11月11日（木）～16日（月）	11月18日（月）～22日（金）	2月9日（日）～15（土）																									
実施テーマ	干潟を通じた環境問題	ゴミ処理問題，エネルギー問題	発酵，微生物及びバイオマスと環境	水質の浄化と環境																									
対象国（生徒数-引率者数）	韓国(11-1) 日本(15)	本校(10-1) 広島県立広島国泰寺高等学校(5-1)	チェコ(1-1) 日本(8)	本校(15-3)																									

で実施) やコンピュータを使ったインターネットによる相手校との連携を行った。

②松田治先生(広島大学名誉教授), 江種浩文氏(中国地方総合研究センター主任研究員), 朴大王先生(広島修道大学教授), 各研究機関(酒類総合研究所, 広島大学宮島自然植物実験所等)等の指導, 助言を得て, 内容の深化・発展を図った。また ACCU(ユネスコ・アジア文化センター), ユネスコスクール, 各自治体(広島県浦島漁協等)と連携しフィールドワークを行った。

③組織的・継続的な普及活動では, 11月21日(木) 課題研究中間発表会や2月20日(木) SSHの日(SSH成果報告会・生徒課題研究最終発表会)において, 本校生徒に対して成果発表を実施した。

5 研究開発の成果と課題

①実施による成果とその評価

- ・ESDの視点で自ら思考し, 判断することの意義と重要性を認識させることがある程度できた。
- ・地域固有の諸課題を地球規模で捉え, 問題を発見する力や解決する力, また得られた内容を活用する力を養うことが一部の生徒についてできた。
- ・海外の生徒と徹底的に議論することによって, 英語によるコミュニケーション力, プレゼンテーション力を養うことが該当生徒ほぼ全員についてかなりできた。

②実施上の課題と今後の取組

- ・生徒同士がより一層連携校と密接な連携を図り, ESDの視点に基づく考え方を深める必要がある。
- ・英語によるコミュニケーション能力を向上させる取り組みを更に深化, 発展させる必要がある。
- ・平成26年度は, 訪問, 訪日国を平成25年度と入れ替えて実施する。その際に, 上記2点の課題解決に取り組み, 内容をさらに精査して実施する。
- ・ESDの視点から取り組んだ様々なカリキュラム開発をさらに発展させるため, 多方面の指導者, 研究者による協力をより一層深め, 改善に努める。
- ・指導者育成によって, 多くの教育現場に成果が普及できるよう, 指導者育成のための実施内容の精選と普及の充実を図る必要がある。